

## 2002年度の鉄軌道事業設備投資計画は総額364億円

東横線と営団13号線との相互直通運転化工事にも着手

東京急行電鉄株式会社

東京急行電鉄（本社：東京都渋谷区、社長：上條清文）では、鉄軌道部門で2002年度に総額364億円の設備投資を行い、輸送力増強をはじめ輸送サービスの一層の向上に努めてまいります。さらに鉄道ネットワークの拡充を目指し、東横線と営団13号線との相互直通運転に向けた、渋谷駅～代官山駅間の地下化工事に着手いたします。

2002年度設備投資計画の概要は次のとおりです。

### 輸送力増強対策として212億円

東横線の輸送力増強対策である「目蒲線（現：目黒線）目黒～多摩川園（現：多摩川）間改良工事および東横線多摩川園～日吉間複々線化工事」（参考図1）においては、2000年9月26日から目黒駅を經由して目黒線と営団南北線および都営三田線との相互直通運転を、2001年3月28日からは南北線を經由して埼玉高速鉄道線との相互直通運転を開始しており、新しい鉄道ネットワークが誕生しています。本年度は、1995年11月に着手した目黒～洗足間立体交差工事、東横線複々線化区間における武蔵小杉～日吉間線増工事を、引き続き進めてまいります。

田園都市線の混雑緩和策として進めている「大井町線大井町～二子玉川間改良工事および田園都市線二子玉川～溝の口間複々線化工事」（参考図2）においては、本年度は、1996年に着手した溝の口駅改良工事（下り線）に加え、二子玉川～溝の口間線増工事、旗の台駅改良工事などを進めてまいります。この複々線化工事が完成すると、田園都市線方面から都心に向かうルートとして、渋谷経由のほかに、東横線複々線化事業により整備された大岡山・目黒経由、および大井町経由が加わることとなり、田園都市線の混雑緩和が図れるものと考えています。

なお、両複々線化工事とも「特定都市鉄道整備事業計画」の認定を受け、「特定都市鉄道整備積立金制度」を活用して進めてまいりましたが、「目蒲線改良・東横線複々線化工事」については1997年度に積み立てを終了し、1998年度から取り崩しを始めています。

また当社では、東横線の首都圏交通ネットワークにおける機能強化を図るため、現在みなとみらい21線との相互直通運転化工事を進めていますが、これに加えて東横線と営団13号線との相互直通運転実施に向け、渋谷駅～代官山駅間の地下化工事に着手いたします。相互直通運転の実施は2012年度を予定していますが、これが実施されますと、池袋～新宿～渋谷～横浜が一本の路線でつながることになり、副都心と横浜地区を結び、首都圏における広域的な鉄道ネットワークの一端を担う動脈路線としての機能を持つこととなります。

#### 車両新造に41億円

車両については新形式車両「5000系」を新造し、田園都市線および目黒線に導入します。5000系は「人と環境に優しい車両」を設計コンセプトに開発された車両で、エネルギー消費効率の向上による環境対策や、軽量化による沿線騒音、振動の軽減に加え、バリアフリー化、車内に設置した液晶ディスプレイによる情報提供などを実現しています。今後の当社線の標準車両として位置づけており、既に10両1編成を田園都市線に導入していますが、本年度は田園都市線に10両3編成と目黒線に6両1編成、計36両を導入いたします。

#### 運転保安と安全対策に87億円

保安面では、目黒線目黒～洗足間立体交差工事を進めており、この工事が完成すると18か所の踏切道が解消され、鉄道の安全性向上と交通渋滞の解消が図られます。

また非常時に列車を停止させるための「非常通報ボタン」を各駅ホームに設置してまいります。

#### 駅施設の改良等サービス改善に24億円

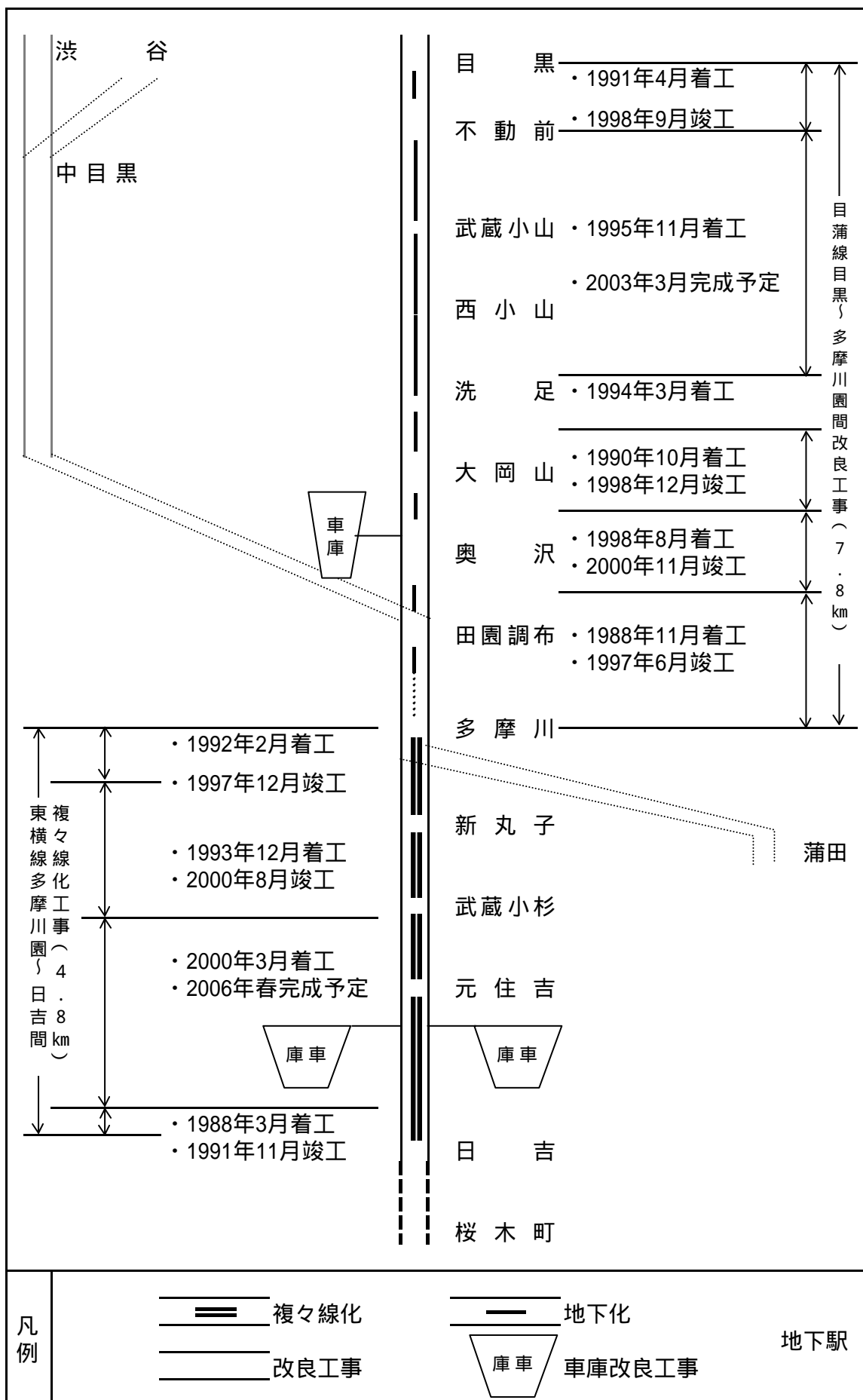
バリアフリー化を図るため、中目黒駅、菊名駅、大井町駅など8駅に、エレベーター11基・エスカレーター5基、妙蓮寺駅、千鳥町駅など8駅にスロープを設置いたします。また妙蓮寺駅、千鳥町駅ではスロープの設置と同時に新たに改札口を設けます。

また、田園都市線を中心とした30駅に運行情報表示器を新設し、通常時には列車の停車駅案内などを表示するほか、ダイヤが乱れた場合にはお客さまに必要な情報を提供できるようにするなど、サービス改善工事を実施いたします。

以上

(参考図1)

目蒲線目黒～多摩川園間改良工事および東横線多摩川園～日吉間複々線化工事  
(工事計画図)



(参考図1)

大井町線大井町～二子玉川間改良工事および  
 田園都市線二子玉川～溝の口間複々線化工事  
 (工事計画図)

